

## ●実物大 カマキリのたまご図鑑

カマキリの卵は「卵鞘」や「卵囊」とよばれています。固めのスポンジ状のものに包まれており、中にはたくさんの卵が入っています。カマキリの卵鞘は種によって形が異なります。カマキリが見られない時期でも、卵鞘を見つけることでどんなカマキリがすんでいるのか知ることができます。



●ヒメカマキリ  
形が四角。石や木のくぼみなどに産みつけられる



●サツマヒメカマキリ  
ヒメカマキリによく似ている。少し大きい



●ヒナカマキリ  
木の幹や倒木、石などに産みつけられる



●ウスバカマキリ  
コカマキリに似ているが、厚みがある。石などに産みつけられる



●コカマキリ  
細長い。木のすき間や石の間などに産みつけられる



●オオカマキリ  
ススキや木の枝に産みつけられる



●カマキリ  
木の枝や幹、丈夫な草の茎などに産みつけられる



●ハラビロカマキリ  
木の幹や家の壁などに産みつけられる



●ムネアカハラビロカマキリ  
木の枝に産みつけられる  
(写真：山崎和久氏提供)

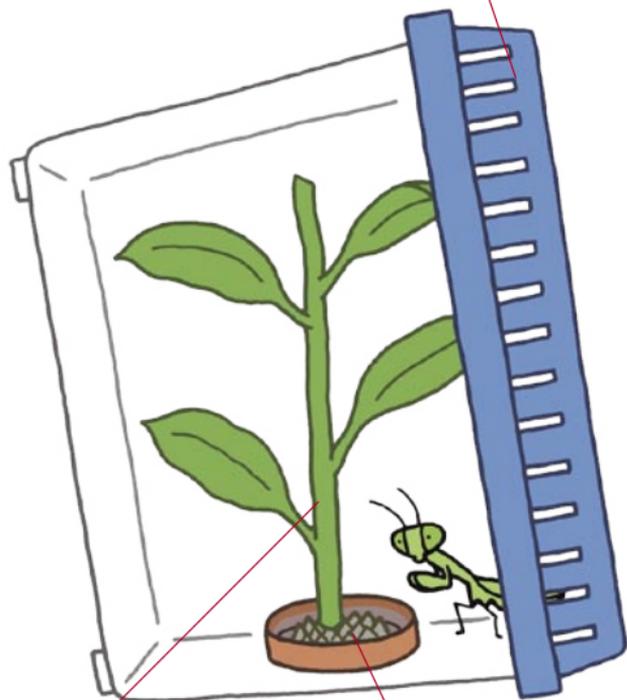


ハラビロカマキリの卵にやってきたオナガアシブトコバチ。  
長い産卵管で中の卵に産卵します。幼虫はカマキリの卵を  
食べて育ちます。

# ●カマキリの飼いかた

## ●成虫の飼いかた

飼育ケースのふたが**あしば**になるので、  
この**むき**で使う

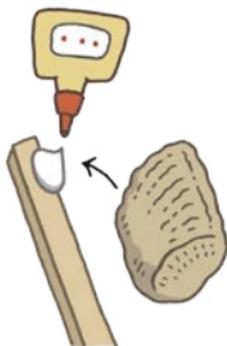


**あしば**の枝を入れる。ぎゅうぎゅうにつめ  
すぎると動きまわれないので注意

ここに水をいれておく

カマキリは動くものを捕まえるので、基本的に生きている昆虫をあたえる。飼育するカマキリの3分の1くらいのおおきさの虫がちょうどいい。オオカマキリならバツタ、コオロギ、チョウなど。水をよく飲むので、霧吹きで水をかけるかお皿に水を入れておく。

らんしょう ほかん  
● 卵鞘の保管



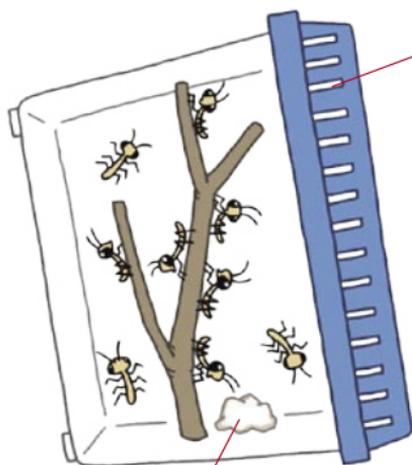
他の布やキッチンペーパーでふたをする

らんしょう した くわかん  
卵鞘の下は空間をあけておく

かわ 乾きすぎないように湿らせたティッシュなどを入れておく

と 採ってきたらんしょう もつこうよう 木工用ボンドなどで棒にくっつける。らんしょう ようき い 卵鞘は容器に入れて、おくがい さむい部屋で保管する。暖かい部屋に置いておくと冬の間に幼虫がふ化してしまい、大変なことになる。

ようちゅう か かた  
● 幼虫の飼い方



すまみ 隙間から逃げないようにケースとふたの間に布をはさんでおく

しめ 湿らせたスポンジやティッシュを入れておく。霧吹きをする場合は水滴が大きくなりすぎないようにする

たくさんのようちゅう か 幼虫は飼いきれないので飼育できる数だけ残して、他はらんしょう と 卵鞘を採ったばしょ に逃がす。せい虫と同じようにケースをたてて足場の枝を入れておく。1～2れいようちゅう 齢幼虫のときはショウジョウバエやアブラムシなどの小さい虫をあたえる。

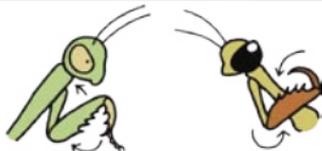
# ● “カマ” を持つ虫



## ●キカマキリモドキ / アミメカゲロウ目

カマキリモドキ科

からだ まえはんぶん  
体の前半分はカマキリにそっくり。カマキリとおなじように前脚で昆虫を捕まえて食べる。夏ごろ灯りによく飛んでくる。クサカゲロウやヘビトノボの仲間できなぎになる完全変態。幼虫はクモの卵を食べて育つ。

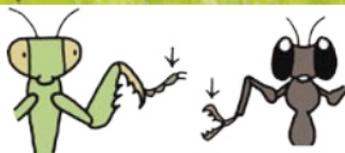


カマキリモドキは“カマ”を後ろ向きにたたく

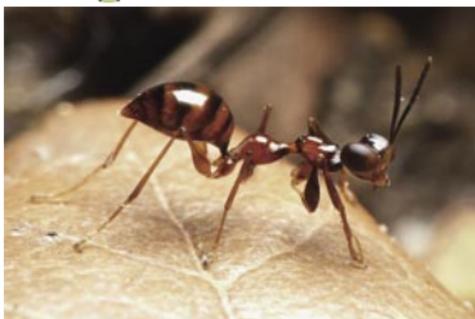


## ●ミナミカマバエ / ハエ目ミギワバエ科

たいちょう 4mm ほどの小さいハエだが、とてもカッコイイ。カマ状の前脚で小さな昆虫を捕まえて食べる。夏から秋にかけて田んぼや小さな池の縁で見つかる。



カマバチは跗節がハサミのようになっている



## ●カマバチの一種 / ハチ目カマバチ科

たいちょう 2~7mm ほどの小さい狩りバチ。とてもカッコイイ。カマキリと違って前脚の跗節がハサミのような形をしている。この前脚でウンカやヨコバイを捕まえて産卵し、寄生する。

(写真：小松貴氏提供)



●ミズカマキリ / カメムシ目タイコウチ科  
みづ なか 水中にすむカメムシの仲間。昆虫  
よこがな や小魚、オタマジャクシなどを前脚で  
つか まえ、とがった口(口吻)を刺して  
たいえき を吸う(正確には消化液を注入  
して溶けた組織と体液を吸っている)。  
み 見かけのわりによくと飛び、がっこうのプー  
ルで見つかることもある。

## 鎌脚戦隊 シュウレンジャー



## ●ハリガネムシ

ハリガネムシは類線形動物門ハリガネムシ綱ハリガネムシ目の生物。体表はクチクラでおおわれており、体節はない。水中に産卵する。ふ化した幼生は水生昆虫に食べられることで体内に入り、休眠状態（シスト）になる。次に羽化した水生昆虫を食べたカマキリなどの昆虫の腹部に寄生して成長し、成体になる。



ヒメカマキリの腹部から出てきたハリガネムシ

## ●ハリガネムシの生活史

